

自然美を損せぬ 交通安全施設の一例

自動車交通の發達に伴ひ、其の利用は單に産業上ののみならず、近時各地の名所舊跡の遊覽に、或は登山等・娛樂に於ての利用も益盛んとなつておることは萬人の知る所であります。然しながら其自動車道路たるや、必ずしも安全なるものゝみでなく、時に千仞の斷崖に臨み、或は羊腸たる棧道を過ぐるあり乗る者をして心膽を寒からしむる所多く、實際に危険極まりない道路も多く、爲に名勝地遊覽などには何等遊山の氣分を味うことも出來ぬ場所があります。

○

歐米諸國に於ては是等危険箇所には既に種々の施設をしてゐますが、吾國にては駒止柵の如き實際的効果に乏しきものがあるのみにて、何等理想的防護設備と見るべきものゝかりしを遺憾としたのであります。

かゝる箇所の防護施設の必要條件としては
(イ)其の施設物が遠方より見るも一つの危険箇所標示物となること。

(ロ)萬一防護施設にぶつかることあるも是をよく支へ、又衝突したるものもなるべく損害せざるようにすること。

等で、然かも其施工は現場の関係上なるべく簡易なるべき事と、自然の美觀を損しない程度のものであります。

此の目的に適するものとして外國では鐵網柵が最も多く使用されてゐます。近來我國に於ても此種の鐵網が使用され初めた、寫眞に示すはその一例で、川崎式自動車保護網と稱する亞鉛引線(四ミリ又は五ミリ線)にて造られた高さ60厘の鐵網を燒杭又は混凝土柱に取付けた工法がある。此等の費用は延長2メートル金十圓以内にて出來、其施工法も頗る簡單なものであります。

此の工法の特徴を發揮した實例は既に六甲山登山道に於て、自動車が危うく千仞の谷に墜落せんとしたる時、其金網は一本の帶の如き働きをなし、自動車を抱込み乗客並に車體に何等の損傷をさへ與へなかつた事であります。

○

スピード時代に於てかゝる施設が完全に施工され、危険を防止し、交通の安全を計ることに、道路關係當局者並に一般人もが留意せられんことを望み、危険防護の一例として紹介する次第であります。

關西支部の春季見學

土木學會關西支部では、去る 19, 20 の兩日にわたつて春季見學會を催した。先づ小濱の所謂雲濱八景と敦賀築港の現状を視察する段取で、19日京都驛集合、1時20分發綾部經由の敦賀行列車で小濱町に向ひ、同日中に北川改修工事現場を見學、同夜は小濱町で盛大な懇親會を開き、翌20日は早朝8時出發、汽船に乗じて船中より雲濱八景の遠望を賞、蘇洞門を廻遊約1時間にして敦賀に航行、船中に晝食を喫して、約1時間にわたつて敦賀築港の現状を視察し、後各自思い思いに附近の名勝を探り、午後四時四十一分發の列車で歸路についた。



第 1 圖、兵庫縣六甲山登山道に施工された川崎式自動車保護網



第 2 圖、六甲山登山道よりの遠望